

目的 女子学生はカジュアルで若々しい服装や、テラードスーツのオーソドックスな服装、女性的で大人っぽい服装と様々な服装をしている。その各被服の色彩が異なるばかりでなくデザインも多種多様である。被服の主な要素である色彩とデザインは、これらが複合して被服のイメージが構成されることが多い。この色彩と被服の間に認知された適合関係があるかどうかを検討するために女子学生を対象に調査した。

方法 最近の服飾雑誌からデザインの異なる被服を8種類選択し、1着ずつデザイン画を描いた。色彩はカラーチャートよりビビット、グレッッシュ、パールトーンの中から8色を選択した。女子短大生132名に試料を1組ずつ配布し（平成2年6月教室内）、各被服のデザインに各色彩がどの程度合うと思うかを7段階で判定してもらった。その結果を順位に換算（同順位を許す）し、ケンドールの一致係数を算出した。

結果 試料とした8種のデザインについてはすべてケンドールの一致係数が統計的に有意な値を与え、一致した判定がされていることがわかった。長袖のブラウスとミディ丈のギャザースカートのツーピースの場合、最もよく適合すると判定された色彩は、空色であり、ついでページユ、オリーブ、青、緑、黄、赤、紫色の順であった。シンプルでおとなしいデザインのこの被服は目立つビビットカラーより落ち着いた色が適合すると判定されている。ミニ丈のサンドレスに対しては黄、赤、空色、緑、青、紫、ページユ、オリーブの適合順であった。この夏用の若々しいドレスには鮮やかな色や涼しい色が適合すると判定している。